

日伯経済連携協定 (E P A) に関する政府間の早急な検討開始を求める

日伯 E P A に関する報告書

2004年5月19日

日本経団連日本ブラジル経済委員会

検討の経緯

第10回日本ブラジル経済合同委員会(2003年3月、サンパウロ)において、日伯双方が民間ベースで日伯 E P A について検討することで合意。日伯経済委員会、ブラジル日本商工会メンバーにアンケート調査を実施し、それも基に報告を取り纏め

日伯の貿易・投資をめぐる状況

- ・ 両国間の貿易・投資の低迷 (ブラジルの貿易・投資に占める日本の地位の低下: 貿易7~8% 4%。投資第4位 第8位)
- ・ 中国の台頭(2002年、ブラジルの対中輸出が対日輸出を上回る)

日本の F T A への取り組みの本格化

- ・ 日星 E P A の締結(2002年1月)
- ・ 日墨 E P A の大筋合意(2004年3月)
- ・ 韓国、タイ、フィリピン、マレーシアとの政府間交渉開始(2004年1月より)

日伯 E P A の効果

- ・ 関税撤廃(平均関税率12%)、投資ルールの改善
- ・ 税制、雇用、治安等の問題、いわゆるブラジル・コストの削減
ビジネス環境の改善
- ・ ブラジル製品の対日輸出の多角化

ポテンシャルにふさわしい経済関係を構築する

アジア諸国と並行して
日伯 E P A を推進

実害を防止し、メキシコの二の舞を避ける

具体的ステップ

- ・ ルーラ大統領の早期訪日を実現し、日伯 E P A について政府間で検討を開始
- ・ 日伯間の E P A の検討を基に、最終的には日メルコスール間で締結

ブラジルの重要性・ポテンシャル

- ・ 中南米の重要な生産・販売拠点(ブラジル1国で経済規模はアセアン10なみ。人口2億1,000万人、GDP8,000億ドルのメルコスール市場)
- ・ 世界最大の日系人コミュニティ(ブラジルの日系人140万人、日本の日系ブラジル人30万人)
- ・ 天然資源大国と経済の相互補完(豊富な鉱物資源、農林水産資源)
- ・ 日本企業の進出(350社が進出)
- ・ ビジネスチャンスの拡大(環境、エネルギー、インフラ、情報通信、IT、アグロ、観光)

中南米における F T A の進展

- ・ 2005年を目指した F T A A、E U とメルコスールの F T A を交渉中